

平成20年7月18日

水産庁

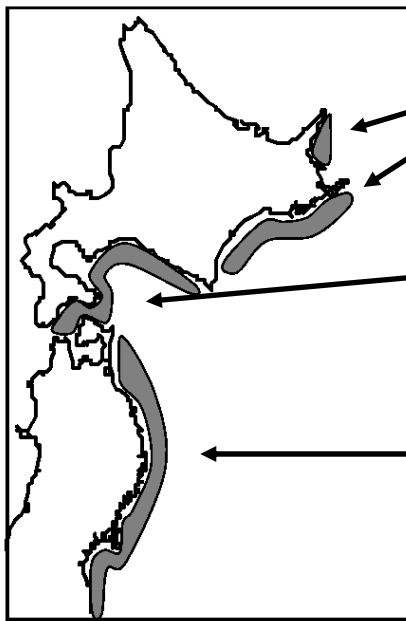
独立行政法人 水産総合研究センター

平成20年度第1回太平洋スルメイカ長期漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
北海道区水産研究所がとりまとめた結果 －

今後の見通し(2008年7月～9月)のポイント

常磐～道東太平洋の北部太平洋海域におけるスルメイカの来遊水準は2007年を下回る。



道東太平洋～根室海峡周辺海域：
来遊量は2007年を下回る。
魚体は20cm未満が主体。

津軽海峡～北海道南部海域：
来遊量は2007年並み。
魚体は19～23cmが主体。

常磐～三陸海域：
来遊量は2007年を下回る。
魚体は20～22cmが主体。

問い合わせ先

水産庁 増殖推進部 漁場資源課 沿岸資源班

担当：大隈、和田、染川

電話：03-3502-8111(内線6800)、直通電話：03-6744-2377、ファックス：03-3592-0759

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/>

独立行政法人水産総合研究センター 北海道区水産研究所 業務推進部

電話：0154-91-9136、ファックス：0154-91-9355

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

<http://hnf.fra.affrc.go.jp/>

平成 20 年度第 1 回太平洋スルメイカ長期漁況予報

今後の見通し（2008年7月～9月）

対象魚種：スルメイカ

対象海域：常磐～三陸海域、津軽海峡～北海道南部海域、道東太平洋～根室海峡周辺海域。

対象漁業：いか釣り、底曳網、定置網、まき網。

対象魚群：冬季発生系群（2008年級群）。

魚体の大きさは外套背長で表示。

1. 常磐～三陸海域（いか釣り、底曳網、定置網、まき網）

（1）来遊量：常磐～三陸南部海域は2007年並みか下回る。

三陸北部海域は2007年を下回る。

（2）漁期・漁場：期間を通じて漁場となる。

（3）魚体：2007年よりも小型であり、8月は20～22cmが主体。

2. 津軽海峡～北海道南部海域（いか釣り、定置網）

（1）来遊量：津軽海峡内は2007年並みか上回る。

津軽海峡東口～北海道南部海域は2007年並みか下回る。

（2）漁期・漁場：期間を通じて漁場となる。

（3）魚体：2007年よりも小型であり、8月は19～23cmが主体。

3. 道東太平洋～根室海峡周辺海域（いか釣り、定置網）

（1）来遊量：2007年を下回る。

（2）漁期・漁場：道東太平洋海域の漁場形成は2007年より遅れる。

根室海峡周辺海域の漁場形成は10月以降になる。

（3）魚体：2007年よりも小型であり、8月は20cm未満が主体。

漁況の経過（2008年4月～6月）および今後の見通しについての説明

（1）資源状態

太平洋海域で漁獲されるスルメイカは、冬季発生系群を主体にし、それに秋季発生系群の一部が含まれると考えられている。太平洋海域における資源水準を漁獲量の動向から推測すると、1970年～1980年代は低位水準で推移し、1989年から増加に転じ、近年では1996年（漁獲量：276,249ト）が最も資源水準の高い年となった。

増加に転じた 1989 年以降では、資源水準が大きく変動した期間も見られたが、2000 年以降はおおむね中位水準で推移していた。直近 2 年の漁獲量は 2006 年に減少したが 2007 年は増加した。なお、2007 年 7 月～9 月の常磐以北太平洋海域の漁獲量（生鮮）は 49,095 トンであり、2006 年同期（28,001 トン）を上回った。

（2）関連調査結果

A：第 1 次漁場一斉調査

6 月中旬～下旬に実施された第 1 次漁場一斉調査（釣り）の結果、沿岸域（38°N 以北、144°E 以西）の平均 CPUE（いか釣り機 1 台 1 時間当たり漁獲尾数）は 3.3 尾であり、2007 年（3.2 尾）並みであった。一方、沖合域（38°～42°N、144°～154°E）では 0.01 尾であり、1990 年以降最低の水準であった。全水域では 1.5 尾となり、2007 年（1.6 尾）並みであり、2003 年以降の平均（0.9 尾）の 167%の水準に達した。CPUE が 10 尾を超える地点は津軽海峡周辺海域で認められ、この海域に高密度で分布すると推測された。一方、沖合域の CPUE は低い水準であった。

B：その他関連調査

・新規加入量調査結果：5 月上旬～下旬に常磐～三陸沖合域で実施された表層トロールネットを用いた漁獲試験の結果、外套背長 5cm 以上 8cm 未満のスルメイカの平均採集尾数（1 曳網当たり漁獲尾数）は 12.6 尾であり、2007 年（27.6 尾）を下回った。さらに、外套背長 8cm 以上の大型個体の平均採集尾数も 2.0 尾であり、2007 年（5.6 尾）を下回った。一方、2008 年の特徴として、外套背長 5cm 未満の小型個体は 2005 年に次ぐ高い水準であった。143°～160°E 付近まで広く採集されたが、160°E 付近の採集尾数は少なく、2007 年よりも沿岸側に分布している傾向が見られた。

・日本海における一斉調査結果：日本海で 6 月下旬～7 月上旬に実施された一斉調査において、津軽海峡西口周辺海域（39°～42°N、138°～140°E）における平均 CPUE は 30.1 尾であり、2007 年（11.9 尾）を上回った。

・岩手県沿岸域における漁獲試験結果：6 月上旬～7 月上旬に岩手県沿岸域で実施された釣り調査によると、2008 年の平均 CPUE は 2.2 尾であり、2007 年（5.8 尾）を下回った。

（3）2008 年の各海域の漁況経過（主に 5 月～6 月）

・本州南方・四国海域：高知県沿岸での釣りによる 5 月～6 月の漁獲量（15 トン）は 2007 年（23 トン）を下回った。和歌山県沿岸での釣りによる 5 月～6 月の漁獲量（19 トン）は、2007 年（14 トン）を上回ったが、CPUE は前年並みであった。三重県沿岸での釣りによる 5 月～6 月の漁獲量（39 トン）は、2007 年（32 トン）を上回り、CPUE も前年比 127%に増加した。また、中型まき網による 5 月～6 月の漁獲量（465 トン）は 2007 年（71 トン）を上回っていた。静岡県沿岸での釣りによる 5 月～6 月の漁獲量（8 トン）は、2007 年（8 トン）並みであったが、CPUE は前年を上回った。神奈川県沿岸での釣りによる 5 月～6 月の漁獲量（1.3 トン）は、2007 年（0.2 トン）を上回った。また、定置網による 5 月～6 月の漁獲量（1.8 トン）も、2007 年（0.8 トン）を上回った。

・房総・常磐南部海域：6 月現在、千葉県沿岸での釣りによる操業は見られず、5 月～6 月の漁獲量は、2007

年(0.1ト)を下回った。また、定置網による5月～6月の漁獲量(7.9ト)は、2007年(12.2ト)を下回った。茨城県沿岸での底曳網による4月～6月の漁獲量(50.8ト)は、2007年(30.7ト)を上回り、CPUEも前年比528%に増加した。

・**常磐北部・三陸海域**：福島県沿岸での底曳網による6月の漁獲量(51ト)は、2007年(33ト)を上回った。また、CPUEも前年比133%に増加した。宮城県沿岸での底曳網による6月の漁獲量(51ト)は2007年(589ト)を下回り、CPUEも前年比63%に減少した。しかし、釣りによる漁獲量(21ト)は、2007年(6ト)を上回り、CPUEも前年比461%に増加した。岩手県沿岸での釣りによる6月の漁獲量(0.1ト)は、2007年(42ト)を下回り、CPUEも前年比12%に減少した。一方、定置網による漁獲量(535ト)は、2007年(467ト)並みであった。青森県沿岸では、八戸および白糠沿岸の釣りによる6月の漁獲量(2ト、70ト)が、ともに2007年(220ト、463ト)を下回った。同様に、CPUEもそれぞれ前年を下回っていた。

・**津軽海峡・北海道南部海域**：青森県大畑沿岸での釣りによる6月の漁獲量(1ト)は、2007年(56ト)を下回った。CPUEも前年比35%に減少した。道南函館港での釣りによる漁獲量(123ト)は、2007年(219ト)を下回ったが、CPUEは前年並みであった。

・**道東太平洋海域**：道東太平洋近海での釣りの初漁は7月10日の段階ではまだである(2007年は7月16日)。

(4) 魚体の大きさ

・5月の新規加入量調査(表層トロール)で漁獲されたスルメイカの全調査地点での外套背長組成は、モードが2cmにある単峰型の組成であった。2007年と比較すると、モードは1cm小さく、外套背長5cm以上の大型個体の比率も低くなっていた。

・6月の漁場一斉調査(釣り)で漁獲されたスルメイカの全調査地点の外套背長組成は、モードが14cmにある単峰型の組成であり、2007年よりモードで3cm小型であった。海域別では、三陸近海域がモード10cmと13cm(2007年：15～16cm)、津軽海峡周辺海域がモード14cm(2007年：17cm)、沖合域がモード11cmと14cm(2007年：14cmと17cm)であった。

・宮城県沿岸で6月に底曳網で漁獲されたスルメイカのモードは12～17cmであり、2007年より6～7cm小型であった。岩手県沿岸で6月に定置網で漁獲されたスルメイカのモードは13～16cmであり、2007年並みであった。青森県太平洋沿岸で6月に漁獲されたスルメイカはバラ入れが主体であり、25～40尾入れが主体であった。2007年よりも小型であった。

(5) 今後の見通しの説明

・本予報対象海域である常磐～道東太平洋の北部太平洋海域の漁獲対象資源は、漁場一斉調査結果および本年6月までの各地の漁獲状況から判断すると、7月上旬現在、一部の海域で前年を上回る漁獲が見られるものの、2007年を下回る水準であると推測される。また、漁期中盤以降に加入すると考えられる後続群の豊度は、5月

上旬～下旬に実施した新規加入量調査において外套背長 5cm 未満の幼体の漁獲が高水準にあったものの、今漁期に加入が期待される 5cm 以上の幼体の漁獲が低い水準であったことから、前年を下回ると予測される。以上のことから本予測期間である 7 月～9 月の来遊水準は 2007 年を下回ると予想される。

・常磐～三陸沿岸域での漁獲対象資源は太平洋沿岸域を北上する群が主体であり、これに津軽海峡から加入する日本海由来の群れが加わると推定されている。三陸近海および津軽海峡周辺海域における漁獲情報と調査結果から、三陸北部周辺海域に来遊するスルメイカの資源水準は 2007 年を下回ると推測される。一方、常磐～三陸南部周辺海域の漁況は、漁業種類によっては好不漁が分かれており、6 月時点では一概に昨年を下回る状況にはなっていない。しかし周辺海域での調査結果と漁獲情報から判断して、常磐～三陸南部周辺海域の今後の来遊水準は前年並みか下回ると予測される。これらのことから常磐～三陸沿岸域の来遊水準は 2007 年を下回ると推察される。魚体は、一斉調査及び漁獲物の測定結果から、前年よりも 2～3cm 程度小型の個体が主体になると考えられる。

・津軽海峡～北海道南部海域での漁獲対象資源は、津軽海峡から加入する日本海由来の群と太平洋を北上する群である。津軽海峡西口周辺海域では調査船による CPUE は 2007 年を上回り、小型いか釣り漁業の CPUE は前年並みであったことから、津軽海峡内の来遊水準は前年並みか上回る可能性がある。一方、津軽海峡東口周辺海域では調査船での CPUE は 2007 年を上回ったものの、小型いか釣り漁業の CPUE が前年を下回っていることから津軽海峡東口～北海道南部海域の来遊水準は 2007 年並みと推測される。これらのことから津軽海峡～北海道南部海域の来遊水準は 2007 年並みと予測される。魚体は、一斉調査及び漁獲物の測定結果から、前年よりも 2～3cm 程度小型の個体が主体になると考えられる。

・道東太平洋～根室海峡周辺海域に来遊するスルメイカは、太平洋沖合を北上する群と考えられている。北海道南方における一斉調査の結果から、道東太平洋海域に分布するスルメイカの資源水準は 2007 年を下回ると推定される。また、本年は道東沖合域の北上暖水の張り出しが前年よりも弱いため、道東沿岸域への北上回遊が前年よりも遅くなると推測される。これらのことから、7 月～9 月における来遊水準は 2007 年を下回ると予測される。魚体は、沖合域の漁場一斉調査結果から、前年より 3cm 程度、小型の個体の割合が増加すると推測される。なお、根室海峡周辺海域への来遊は例年通り 10 月以降になると推測される。

本邦北部太平洋でのスルメイカ漁獲量(7月～9月)
(いか釣り・定置網・底曳網・まき網、生鮮、トン)

年	常磐・三陸	津軽海峡・道南	道東・根室海峡	合計
1993	16,241	20,196	2,612	39,049
1994	24,646	20,348	5,064	50,058
1995	34,334	14,941	3,463	52,738
1996	79,062	30,662	11,441	121,165
1997	28,417	35,509	3,262	67,188
1998	9,849	8,988	2,550	21,387
1999	23,714	10,864	836	35,414
2000	37,481	11,845	7,430	56,756
2001	23,948	15,519	5,631	45,098
2002	35,893	12,587	1,122	49,602
2003	31,316	18,476	2,517	52,309
2004	39,105	15,152	3,843	58,100
2005	29,242	17,963	4,642	51,847
2006	13,243	14,098	660	28,001
2007	33,525	11,082	4,488	49,095

参 画 機 関

北海道立釧路水産試験場	三重県水産研究所
北海道立函館水産試験場	和歌山県農林水産総合技術センター 水産試験場
青森県水産総合研究センター	高知県水産試験場
岩手県水産技術センター	社団法人 漁業情報サービスセンター
宮城県水産技術総合センター	水産庁 増殖推進部 漁場資源課
福島県水産試験場	独立行政法人 水産総合研究センター
茨城県水産試験場	北海道区水産研究所
千葉県水産総合研究センター	東北区水産研究所
神奈川県水産技術センター	日本海区水産研究所
静岡県水産技術研究所	